

《株式会社エフエム東京 第409回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 26年 6 月 10 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(5名)

横 森 美 奈 子 委員長	内 館 牧 子 委員
渡 辺 貞 夫 委員	秋 元 康 委員
西 田 善 太 委員	

◇欠席委員(1名)

香 山 リ カ 委員

◇社側出席者(9 名)

富木田 代表取締役会長
唐 島 専務取締役
石 井 常務取締役
平 常務取締役 営業局長
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
高 橋 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(2 名)

千 代 代表取締役社長
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 30 分)

『TOKYO FM 特別番組

これからを見つめて～LOVE&HOPE 3 年目の春だより～』

3月11日(火) 13:00～15:45 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■第 51 回ギャラクシー賞 ラジオ部門で大賞を受賞

去る6月4日(水)、放送批評懇談会が主催する「第51回ギャラクシー賞」の贈賞式が行われ、ラジオ部門において、当社制作『TOKYO FM 特別番組 これからを見つめて～LOVE&HOPE 3年目の春だより～』が、大賞を受賞いたしました。

この番組は、東日本大震災発生以来、平日毎朝 6:31～6:40 に JFN38 局で放送している復興支援番組「LOVE&HOPE～ヒューマン・ケア・プロジェクト」の特別番組として、2014年3月11日 13:00～15:45 に放送したものです。3年間の取材を通して築いてきた被災地の方々との人間関係を軸に、課題と現実を浮き彫りにしながら復興に向かう彼らの声を伝えました。

当社理念である「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」の考え方のもと、一過性の関係ではなく、復興地の方々の声に耳を傾け続け、ともに寄り添い、継続的にその声を全国のリッスナーへと橋渡ししてきたことを評価されての受賞となりました。

なお、当社制作作品は特別番組「前略、倉本聰様～小山薫堂からの贈りもの」もギャラクシー選奨に入賞しました。

TOKYO FM がギャラクシー賞ラジオ部門の大賞を受賞したのは、1994 年以來 20 年ぶり(受賞作:トランス・ワールド・ミュージック・ウェイズ～泳ぐ楽園)のこととなります。

■2014 年 4 月度 聴取率調査結果について

2014 年 4 月の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました。(調査対象期間:4 月 21 日～4 月 27 日)

今回は、男女 12-59 才ではスコアは前回と変わらず、在京局中同率 2 位でしたが、メインターゲットである M1F1 層でスコアが上昇、特に F1 層(女性 20-34 才)は全日平均で在京局単独トップを獲得しました。また、男女 20 代区分でも全日平均で同率ながら首位を獲得し、若者層のスコアをアップすることができました。

また、課題である平日ワイド番組も昨年の番組改編の効果が徐々に現れ始めており、平日デイトム帯(9-18 時)が M1F1 層で同率首位を獲得することができました。しかしながら今回は週末、特に堅調に聴取率を維持していた日曜日の番組においてスコアを下げました。人気番組のリーチ回復による聴取率アップを課題として、企画の精査、広報 PR の強化に取り組んで参ります。

この 1 年間を時系列で捉えると全体スコアは上昇基調にあり、若者層を中心として幅広い層の支持を集めることができつつあります。今後も引き続きリスナー第一主義の番組づくり、共感のある放送を心がけ、さらなる聴取率向上に向けて努めてまいります。

■2014 FIFA ワールドカップに向けての取り組みについて

6月13日(日本時間)より開幕する2014 FIFA ワールドカップ ブラジル大会に向けて、TOKYO FM では日本戦全試合を中継するPRも合わせて、「日本代表ポイントラブ! TOKYO FM Winning Project」と題した、レギュラー出演者やリスナー参加型の様々な応援企画を現在展開中です。

1) 「TOKYO FM ゴン中山 大明神」 渋谷スペイン坂スタジオにオープン

1998年のFIFA ワールドカップ フランス大会で、日本人初ゴールを決めた中山雅史さんの実力と強運にあやかって、彼の足型レリーフを作成し、6月9日より、渋谷スペイン坂スタジオに「TOKYO FM ゴン中山大明神」として展示しています。その当時、本人が着ていた背番号「9」の日本代表ユニフォーム、日本代表への応援メッセージを書き込めるオリジナル絵馬も用意し、日本代表必勝祈願のスポットとして演出しています。



シリコンで足型をとる中山雅史氏



本人が着ていた背番号「9」の日本代表ユニフォーム、日本代表への応援メッセージを書き込めるオリジナル絵馬も用意し、日本代表必勝祈願のスポットとして演出しています。

2) TOKYO FM 日本代表応援ソング「風になりたい」をリスナーとレコーディング

年内での解散を発表しているTHE BOOMの名曲「風になりたい」。サッカーファンの応援歌としても歌われるこの楽曲を、朝のワイド番組「クロノス」のパーソナリティ、中西哲生と高橋万里恵、また、約300名の応募の中から選ばれたリスナー20名でレコーディングしました。完成した「風になりたい～TOKYO FM リスナー・コーラスエディション」をTOKYO FM サッカー日本代表応援ソングとして、6月9日よりオンエア中です。



3) サッカー日本代表選手の「Cheer Up SONGS」

TOKYO FM 報道チームがサッカー日本代表選手たちに「試合前に聴く曲」や「心の支えとしている曲」を独自取材。長友佑都、岡崎慎司、遠藤保仁、柿谷曜一朗、大久保嘉人ら16選手の『Cheer Up SONGS』が集まりました。代表選手たちの好きな音楽について語る貴重なコメントとともにオンエアしています。

4) 2014 FIFA ワールドカップ ブラジル 日本戦全試合と決勝を中継放送

TOKYO FM はじめ JFN38 局では、6月15日(日)のコートジボワール戦を皮切りに、今大会の日本戦全試合と、7月14日の決勝大会を完全生中継いたします。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○ギャラクシー賞大賞受賞、おめでとうございます。ラジオの中ではいくつの賞があるのか？

■ラジオ部門の賞としては、大賞が1本、優秀賞が3本、選奨が4本の計8本。昨年度一年間に放送された全国の番組から 70 作品ほど応募があった中で、当社で大賞と選奨に1本の計2作品が選ばれた。

議題2: 番組試聴 (約30分)

【番組名】『TOKYO FM 特別番組

これからを見つめて～LOVE&HOPE 3年目の春だより～』

パーソナリティ:ロバート・キャンベル、高橋万里恵

【放送日時】 2014年3月11日(火) 13:00～15:45 放送

【番組概要】

東日本大震災からちょうど3年を迎えた当日放送した特別番組です。

時間が経つと忘れがちな震災の記憶を風化させないために、TOKYO FMではアース&ヒューマンコンシャスの理念に基づき、東日本大震災以降、被災された方々と全国のリスナーをつなぎ、復興地の様々な姿を紹介する復興支援番組「LOVE & HOPE」を3年間、平日毎日、朝6:31～6:40に全国に向けて発信し続けてまいりました。

この特別番組では、レギュラー番組の日々の取材を通して出会った被災地、岩手・宮城・福島の、とりわけ FM リスナーに近い若い世代の足跡をたどり、課題と現実を浮き彫りにしながら、様々なアングルで復興の姿を紹介しました。

全編2時間45分の中から本日のダイジェスト版では、福島県大熊町から長野県白馬へ移住した家族の話、岩手県・三陸鉄道震災学習列車の模様、岩手県大槌町で震災の語り部を続けている女子高生が今抱えている想いと将来の夢のパートをお聴きいただきます。

ふるさとを愛し、大切に作る気持ちを丁寧に取材することで、未曾有の大震災の風化を防ぎ、リスナーが自分たちも復興に前向きに協力したい、と思えるよう願いを込めて、番組を制作しました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○ラジオは声だという当たり前のことを再確認させられた番組だった。ロバート・キャンベルさんの声もすごく良かったし、大熊町の木村さんの声も良い。悲しみを乗り越えて長野でペンションをやり、長女を呼び寄せ、でも行方不明の次女を福島に探しに行く、木村さんの温かさ、決意をインタビューの声で感じて、改めてラジオはすごいと思った。ただ、気になるのは、木村さんのせつかくの手紙をパーソナリティがきちんと読むとなんと伝わらないものか、パラドックスに陥っているところがあったくない。木村さん本人がボソボソと同じ内容のことを言ってくれた方が届いたのではないかと。同様に大槌の高校生のことみさんも普通の言葉を使っていて、本人の声がすごくよかった。

ラジオもテレビもすべてそうだが、訓練してハッキリしてものを伝える人が出てくると、そこでつまらなくなつて、滑舌よくきちんと伝えようというのが伝わらなくて、そうじゃないものが伝わるという不思議な現象がある。推敲を重ねるほど、それによって何か違ってきってしまうことがある。現地の方の話を聴いて、やっぱりラジオは声だ、温かくて良いなあと思つても、それを番組にしてプロの手がかかると大事なものが破けてしまうような気がする。リアルな素材を損なってしまうかもしれないこと、ラジオ、番組づくりの難しいところで、今後のテーマだと思ふ。

○木村さんの手紙の内容も胸に迫るものだったのに、ことみさんが彼女自身の言葉で亡くなったおばあちゃんに読んだ手紙が圧倒的だった。同じ内容でも高校生が言うだけでも聴こえ方が違うし、少し出てくる訛りのリアルだった。この子をよく見つけてきたものだと思う。関係のない人にとっては震災が風化してきている一方、現地の人たちの間では、「もういいよ、311の話は…」という風潮もある。今後、どうやってこの震災のことを語り継いでいけばいいのか、こういう番組を作り続ければいいのか、というのは大きなテーマだと思ふ。今回のものは番組としては非常に良かったと思ふ。世界の若者のアンケートの結果で、日本人の若者が「国のために働きたい」と回答したのが一番だったという話が最近あった。これまでなら「自尊心がない」などの項目で目立っていたところだが、この意識には恐らく震災が相当大的な影響を与えていると思ふ。それならこれをもっと生かさなければという気がする。

○冒頭のロバートさんの声から、全体に生の声が響きすぎている。音の作り方をもう少し考えた方がいいのではないか。風呂場でしゃべっているような声に聴こえるので、身近に感じられない。番組の趣旨は良いが、そういうのが最後まで気になった。もう少しリバートを工夫するなど、特に人の声は素のまま聴きたいと思つた。

○3月に被災地に行って地元の人に話を聞いたら、今までは少しアドレナリンが出た状態で頑張つて来られたけど、これからが本当の復興だねと話しており、身構えも悲観も感じられた。彼らのような地元の人が、うまく説明できなくても、彼らの声を放送する場を作り続けたスタッフのこの3年の努力に感心、感嘆する。前々回 SCHOOL OF LOCK!の企画に出てきた被災地の男子高生もいたが、彼らがすごいのではなく、それを放送しようという判断の方が本当はすごいのだと思ふ。同時に、普通の言葉を垂れ流すだけではいつか伝わらなくなる時期が来ることも制作者は分かっているはずではない。何かに例えたり、物語や歌にしたり、キーワードを見つけたりして次の段階に持っていかなければならなくなる日がいつか来る。ただ普通に放送しているだけでは耳を傾けられなくなる瞬間が来ることも意識し、今後ポイントを変える時期が来るだろう。

○毎朝やっている LOVE&HOPE の番組のエピソードは、日替わりか週ごとか？

■1週間に1テーマが基本になっている。例えば今日の木村さんの場合は、ある週の月～金曜の5日間の帯で紹介した。その取材を繰り返す中で、取材先の方々との人間関係ができて、今回の特番で改めて取材をした。

○ロバート・キャンベルさんは、番組には日常的に関わっているのか？

■毎朝の番組には出演していないが、年末の特番など、特番などのポイントごとに関わっていただいている。

○ギャラクシー賞の大賞を受賞したと聞いて、どういうところが評価されたのだろうかと思いつながり聴いたが、3年間平日毎日番組を続けてきたというこのスタンスも評価の対象になっているということか？

■おっしゃる通りです。今回3年目ということで、各社311の番組の出品は多かったそうだが、継続した取り組みの蓄積がしっかりこの番組の中に表現されているという点で評価いただいた。

○震災の直後からスタートし、ずっと続ける意思でやっているというのはすごいことだ。

■局の発信している姿勢と番組の内容がピタリ一致していることも評価いただいた。

○普段の番組は固定のスタッフで制作しているのか？

■そうです。今回の番組では、FM 岩手に協力ももらったが、基本はこちらから出向いて取材をしている。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
6月28日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、7月1日(火)に開催することを決めた。